



# いきいき仲間たち

## 海を越えて ミツバチと生きる

養蜂家 ティム・エスリッジさん  
織本 厚子さん

市内山崎の山あいには並ぶ養蜂箱。この地域で、イギリス出身のティム・エスリッジさんと東京都出身の織本 厚子さんがミツバチと向き合いながら、夫婦二人三脚、養蜂業を営んでいます。

1990年代初め頃、イギリスからのボランティアとしてバヌアツで診療所の建設をしていたティムさんは青年海外協力隊として活動していた厚子さんとは出会いました。帰国後は連絡を取り合っていないでしたが、共通の友人を通じて1999年にウガンダで再会、翌年結婚しました。結婚後は海外で生活をしていましたが、娘さんの日本語教育のことを考え、日本への帰国・移住を決意。「当初、伊豆か千葉への移住を考えていましたが、私が都内に出勤することもあるため、千葉に決めました。さまざまな地域を訪問する中で、茂原の、自然に囲まれつつも生活に便利な環境が整っている点に魅力を感じ、ここを選びました」と厚子さんは茂原に決めた理由を話してくれました。

ティムさんが養蜂に興味を持ち始めたのは、1980年代にケニアの技術専門学校で木工を教えた際、養蜂に使う木箱の作り方を教えたことがきっかけです。「木箱を作るためにミツバチの生態を学ぶ中でその奥深さに惹かれ、いつか養蜂に挑戦したいと思っています。

そして茂原への移住を機に夢だった養蜂を始めました」といささつを語ってくれました。

ティムさんは自然にこだわった蜂蜜作りをしています。日本はオオスズメバチやヘキイタダニなどミツバチの天敵が多く、西洋ミツバチの養蜂に適していないようですが、ティムさんは農薬や抗生物質を使わずにミツバチを育てています。それゆえにミツバチの冬越えがうまくいかなかったこともあり、「4年前、一生懸命育てた15群のミツバチが、3群しか生き残らず、もう辞めようかとも思った。それでも諦めず、試行錯誤する中で、強いミツバチを育てられるようになってきました」という言葉からは確かな手応えを感じている様子が伺えました。今では、春の茂原の花から集めた香り高い蜂蜜を楽しみにしてくれる方が全国にいるそうです。

二人は今の暮らしについて「茂原の人が好き。近隣の人たちは養蜂の活動について理解してくれるし、農作物に関することも親切に教えてくれます。あと、茂原公園や茂原牡丹園など花がきれいな場所も多く、友人が来た際は一緒に訪れています」と笑顔で話してくれました。

人と自然の温もりに支えられ、養蜂家としての活動は、これからもこのまちで続いていきます。

防災・防犯に関する情報をメールで配信

**もばら安全・安心メール** を  
ご利用ください

登録

右のQRコードを読み取るか、下記メールアドレスに空メールを送信後、返信されたメールに記載されている手順に従って登録してください。

[touroku.mobara-city@raidan2.ktaiwork.jp](mailto:touroku.mobara-city@raidan2.ktaiwork.jp)



※高齢者等を対象に、防災情報を自宅の電話・FAXに配信するサービスも行っています。

問合せ 防災対策課 (4階) ☎(36)7580 FAX(20)1602

今月の日曜開庁	3月22日⑩ 9時～16時30分
市民課(2階)	☎(20)1502
市民税課(2階)	☎(20)1577
収税課(2階)	☎(20)1578
本納支所	☎(34)2111
証明書等交付時間を延長	毎週水曜日 19時まで
市民課(2階)	☎(20)1502

※一部取り扱えない業務もありますので、詳しくはお問い合わせください。

日曜・休日当番医	診療時間 9時～17時	
	《内科系》	《外科系》
3月1日⑩	大多和医院 ☎(33)6111	穴倉病院 ☎(24)2171
3月8日⑩	よねもと整形外科 ☎(40)1065	菅原病院 ☎(25)1171
3月15日⑩	大木医院 ☎(23)2546	穴倉病院 ☎(24)2171

※都合により、変更する場合があります。救急患者が優先となります。消防本部中央消防署☎(24)0119、FAX(25)8448へお問い合わせください。

**防災行政無線が再確認できます**

しみんは 119

**☎0120(438)119**  
(通話無料)

**【人口と世帯数】** 令和8年2月1日現在

- 総人口 84,991人
- 世帯数 42,256世帯
- 男 42,072人
- 女 42,919人

**【1月中の動き】**

- 転入 202人
- 転出 156人
- 出生 29人
- 死亡 153人